PICK UP

THE PERSON

一般社団法人 きずな会
ケアセンターきずな
代表理事

小薗晶

KEY WORD

経験値

— keikenchi —

30歳を過ぎてから、異業種より福祉の世界に入った小薗代表理事。
苦労も多く経験し、「辞めたい」と考えたこともあったが、
「とにかく5年は頑張ろう」との想いで耐えてきた。
そして経験を積むうち、「周りの幸せが自分の幸せ」という価値観が芽生え、
目的意識が高まり、研修会や勉強会などに積極的に参加するようにもなった。
そうして知識や経験と共に、仕事への大きなやり甲斐を身につけたという。
5年の間に培ってきたこの経験値は、代表理事の大きな財産。
その財産を手に、代表理事は今後も良い仕事を続けていくことだろう。

**「経験を積むことで視野が広がり、
全体の幸せを考えるようになったのです」**

© 2018 USP-Management Co., Ltd.

小さな要望にも逐一応え、地域福祉に貢献する

神戸市にて「24時間365日、地域福祉に貢献する」をスローガンに掲げ、地域に密着した在宅介護サービスを提供している『ケアセンターきずな』。同業他社より短い20分未満のサービスプランを用意し、ちょっとした要望にも逐一応えてくれる、利用者本位の事業所だ。本日は同所を運営する『きずな会』の小薗代表理事に、詳しくお話を伺った。

代表理事
小薗 晶
対談
大西 結花 女優

大阪府東大阪市出身。学業修了後は流通の世界に身を投じる。その後、介護職に転身し、事業所の再生や立ち上げなどに携わった後、独立。『ケアセンターきずな』を運営する『きずな会』の代表理事となり、現在に至る。

福祉業界での5年の経験を経て介護に対する高い意識を身に着けた

——まずは、小薗代表理事の歩みから。

私の社会人の第一歩はスーパー・流通業界なんです。スーパーに8年ほど勤め、その後も流通業界で働いていました。当時はずっと流通の仕事に携わる心づもりでしたね。それが現在のような福祉業界に入ったのは、介護保険が始まって、新聞の広告欄に毎日「ヘルパーさん募集」と載るようになって興味を持ち、「自分も資格を取ってみようか」と考えたのがきっかけでした。

——実際に福祉の業界に入ってみられていかがでしたか。

当初は「辞めたい」とよく考えていましたね（苦笑）。業務そのものが嫌だった訳ではなく、業態が違う分、今までに経験のない問題やトラブルに対応できなかったのです。ただ、「何があっても5年間は辞めない」と固く心に決めていたので、とにかく頑張りました。そして経験を積むうちに、考え方が変化していきました。1年目にはあくまで自分自身がどうあるべきかが、価値観の中枢にありました。それが時を経ると、だんだん視野が広がって、周りのことが見えてくるんです。そして、自分のことだけでなく、相手ありきの考え方が身についていきました。地域にとって良いこと、あるいはご利用者にとって良いことが、自分にとっても良いこと——そういった発想をするようになったのです。また、そうした発想をする中で、「もっとこうしていきたい」といった目標も芽生えていきました。それで、研修会や勉強会にも積極的に参加し、スキルアップすると共に、様々な知見を吸収することができました。

——仕事を覚えられていくにつれて、面白さ、やり甲斐をだんだん感じられるようになったのでしょうね。

そうですね。最初の約4年間は大阪で訪問介護をやっていて、その後、縁があって神戸に移ったのですが、そのころから意識が変わっていった気がします。そして、赤字の事業所を再生したり、この近くの法人の事業所の立ち上げに携わったりするようになり、直接的な対人援助のみでなく、マネジメントする楽しさも感じるようになりました。

——それが現在の『ケアセンターきずな』さんにつながっていったのですね。こちらではどのような事業を？

訪問介護と居宅介護支援事業（ケアマネジメント）を行っています。地域密着というのが私の考える福祉のあるべき姿。そんな中、在宅で最後まで受け入れるような所がこの地域になかったことから始めたんですよ。赤字の事業所の再生や事業所の立ち上げなどの経験があったお陰で、ご利用者の獲得もスムーズにできました。

——これまでのご経験が本当に今の事業に活かされていることが窺えますね！

地域の方々のために尽くしていきたい

——こちらの強みは何だとお考えですか。

多くの事業所さんが最低でも30分以上のサービスのみを提供しているのに対し、地域の方々の事情を踏まえて、20分以下の短いサービスを提供していることですね。そうした短いサービスでは、デイサービスに行くのに階段から降りられない方を抱っこをして上げ下ろしをしたり、下着の取り替えをしたりといった、ちょっとしたご依頼に応えています。ご利用者からは小さな頼み事も頼みやすいですし、料金も安くて済みます。そして私たちは、滞在時間を少なくして、より多くのご利用者に、サービスを提供することができるのですよ。

——それができるのも、力のあるスタッフさんが揃っているということですよね。

そう思います。スタッフは皆しっかりと対応してくれるので、本当にありがたいですよ。勿論、ご利用者にご満足いただくために、心して日々の指導に当たっていますよ。時には、私のように全くこの業種の経験のない人が入ってくることもあります。そういう人はやはりかつての私と同じく、我が強くて周囲を見渡す観点が欠けていることが多いですから、その点を特に気をつけて指導するようにしていますね。

——意識の部分からしっかりと指導を行っておられるのですね。最後に今後の展望を。

私がいなくても、スタッフに任せることのできる体制を作っていきたいですね。そのためには人材育成が欠かせません。私共と価値観を共有し、地域の福祉を支えてくれるような人材を育て、末永く地域に貢献していきたいです。幸い、候補となる人には恵まれていますし、目標達成に向けてまた全力を尽くしていく所存です。

一般社団法人 きずな会
ケアセンターきずな

兵庫県神戸市灘区灘北通２丁目3-19
URL：http://www.care-kizunakai.com

check Point
訪問介護の間口を広げていく

▼小薗代表理事は今後、介護職を目指す人たちをもっと増やしていくため、養成の仕事を手掛けることも、視野に入れているという。

▼厳しい環境に置かれているという印象の強い介護職。「その中でも訪問介護はきつい」と考える人は業界内でも多く、介護を指導する側も「訪問は大変だから、最初は施設のほうが良いのでは」と勧めるケースもままあるそうだ。「そうした現状を変えていきたい」と語る代表理事。自分たちが今『ケアセンターきずな』で行っている訪問介護のあり方を伝えることで負のイメージを払拭していきたいと考えている。「たとえば、子育てをしている最中の人でも参加することも可能なんです。『気軽にやってみよう』とこの業界に参加する人たちを増やすのが、私の目標の１つですね」。

▼介護に対する強いこだわりを持つ代表理事が手掛けるからには、もちろんただ間口を広げるだけでなく、意識の高いプロを育てるための養成プランとなるのだろう。新たな目標を胸に、代表理事は挑戦を続けていく。

大西 結花（女優）
guest comment

「小薗代表理事は『きずな会』立ち上げの際、『後悔だけは絶対にしたくない』と考えられたのだそうです。心が後ろ向きになると、事業も前に進めなくなってしまう。そして事業が衰退すると、同じ船に乗ってくれている人たちも巻き込んでしまう、とのお考えなのだとか。周囲のことをよく気遣う、責任感の強い代表理事ならではのお考えだと思いましたよ」

© 2018 USP-Management Co., Ltd.